

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 1階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	2023年 2月28日	評価結果市町村受理日	2023年 4月 6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や、共に行う制作活動、毎日の体操やゲーム、脳トレ等に力を入れています。季節ごとの飾りや行事を行う事で、季節感を感じて頂いたり得意不得意を把握しながら、制作活動を行う事で完成時の達成感や充実感を持って頂ける様に支援しています。入居者様の自立した生活や要望を大切に、笑顔で過ごして頂ける環境作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームウェルスタイル拓北」は、JR拓北駅から徒歩で7分ほどの静かな住宅地に立地している。周辺には公園やスーパーマーケット、郵便局や銀行もあり生活環境に恵まれている。リビングダイニングは清潔感のある広々とした造りで、ゆったりしたソファやテーブルなども備えられており、好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾が施され家庭的な温もりが感じられる。新たに就任した管理者を中心に全職員で一人ひとりの利用者に寄り添い、みんなが笑顔で楽しい日々が送れるように支援している。管理者は、計画的に研修を実施して職員の育成や資質向上に力を注ぐとともに、職員の意見や提案を運営やケアに反映させて働きやすい職場環境の整備に努めている。ケアマネジメントの面では、サービス内容に沿って変化を記入できるように支援記録の書式を変更し、介護計画に反映させている。感染症流行のため計画的な外出は難しかったが、感染状況を見ながら散歩やドライブ、近隣への買い物などに出かけている。居室ベッドには見守り支援システムを採用し、睡眠状態を把握して健康管理を行っている。利用者と一緒に蒸しパンやホットケーキ作りをしたり、出前やテイクアウトで食事を楽しむなど、各利用者が家庭と同じような生活が継続できるように全職員で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々意識実践できる様にスタッフルームに理念を掲示し、ケアの目標としている。思いに耳を傾けコミュニケーションを大切にしている。	事業所理念に「人と地域に寄り添い」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。理念を基にユニット目標を作成し、職員の目につく場所に掲示している。玄関にも理念を掲示して外部の方にも周知したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍だが、散歩や、近隣への買物等で挨拶を交わすなどして地域との繋がりを意識した交流を行っている。	散歩の時に挨拶を交わしたり、コンビニエンスストアなどに出かけている。管理者が町内会の会議に出席しているが、町内会への加入状況がわからないので再確認する予定である。感染症収束後は、保育園との交流なども再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で積極的な発信は行えていない。今後は地域の方に来訪して頂く機会を作り認知症への理解を深めて頂く事や、支援の方法を伝えて事業所の力を活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、ご家族様の参加は難しいが、書面で事故等、情報を公開し意見を頂きサービス向上に活かせるよう職員間で共有している。	書面会議を開催し、利用者状況やヒヤリハット、行事や職員研修などを報告している。議事録は家族と町内会、地域包括支援センターに送付しているが、質問や意見などは得られていない。令和5年7月より対面での会議を予定している。	テーマを記載した案内を送付したり、研修資料なども添付して参加できない家族の意見や質問を収集し、会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況の報告や不明点のアドバイスを頂く等、協力関係を気付いている。	市役所に管理者の変更届を提出している。事業所として個別に相談することはないが、法人事業所間で連携して介護計画の書式変更について確認している。感染症収束後は、管理者も役所を訪問して情報交換しながら連携を深めたいと考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い、身体拘束の理解を深めている。カンファレンスでも職員間の意識の統一を行い身体拘束の無いケアを実践している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、新人研修や年2回の勉強会で確認している。「虐待防止・身体拘束委員会」を全体会議で3か月ごとに開催し、全職員で情報を共有している。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、閉塞感を感じないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っている。見過ごす事のないよう努め職員間で意見交換や認識の確認を行っている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い理解を深めている。成年後見制度の利用は無いが、研修等で理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を理解し、安心して入居頂ける様、不明点や疑問点がある場合丁寧に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話でご利用者様の様子をお伝えする事やご家族様からの質問や疑問を伺い運営に反映させている。	面会時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、連絡ノートや個人記録に記入している。継続的に情報共有できるように個人記録の書式変更を予定している。個別の様子を「拓北通信」に記載することも考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言える環境作りや、面談等で意見、提案等を聞き反映させている。	普段から職員が話しやすい雰囲気をつくり、意見や提案を聞き取り業務内容の見直しやゴミ出し方法などを変更している。職員の状況を見ながら不定期での個別面談も実施している。職員は委員会や係を担当しながら運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場が見える位置で業務にあたり、職員の心身の状況を確認しながら職場環境作りにあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等でスキルアップを図ったり、外部の研修に参加し、資格取得支援制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所との交流は行っていないが、オンラインでの情報交換を図り質の向上に役だっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安・要望等リラックスした状態で話ができるよう心がけている。信頼関係を築き安心できる生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の心配事や要望にしっかりと耳を傾け信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題の優先順位を明確にし、サービスを提供できる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を見極め、共に行い支え合う関係を築き暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や病院受診の同行等は可能な限りご家族様に行なって頂いている。絆が途切れない様な、協力体制を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの人や場所との関係を継続出来るよう支援している。電話や手紙等の取次を行っている。	近所に住んでいた方が訪ねて来たが、感染症流行のため面会ができなかったこともある。感染状況を見ながら、馴染みの大型商業施設やコンビニエンスストアに出かけている。今後も収束状況を見ながら外食に出かける予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り橋渡しをするなどして、入居者様同士の交流がスムーズに行える様努めている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心配な事や聞きたい事などがあれば連絡して頂ける様声をかけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向に沿った支援が出来る様、日々の生活の中で傾聴し、把握出来る様に努め、本人本位の検討を行っている。	ほとんどの利用者は会話で思いや意向を伝えることができるが、状況を見ながら表情や仕草から読み取ることもある。「課題分析」に生活歴や趣味・嗜好を記録して、6か月ごとに更新している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を聞き取り、その方のバックグラウンドを大切に馴染みの生活や環境になるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方や心や体調を把握しながらの支援に繋がるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを把握の為の話し合いやカンファレンス時に職員の意見交換を行い、現状に即したプランの立案に努めている。	毎月のカンファレンスを基に3か月ごとに評価を行い介護計画を作成している。利用者の意向を計画書1表に記入しているが、2表に反映されていないものもある。「支援記録」にサービス内容を記載し、変化を記入しやすく書式を変更している。	施設サービス計画書(1)の本人や家族の意向を、(2)表の短期目標やサービス内容に反映させた計画になるよう期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から気づきを持ち、記録に詳しく記入する事や、連絡ノートに記入する事で、職員間の情報共有が出来、計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズへの対応として変化のあるレクや行事に工夫を凝らしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしながらの交流、外出レクの計画を立て、豊かな暮らしの支援に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を聞き取りかかりつけ医、往診医を選定している。健康維持ができる様、医療と連携している。	月1回の訪問診療を受けている利用者、家族とかがかりつけ医に通院している利用者がある。家族と受診する場合は、健康状態を主治医にメモ書きで伝えることもある。受診記録は書式を変更して「診療情報記録」に記入する予定である。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り用紙に記入し、職員が看護師に気づきを伝える事で、適切な受診や看護に繋げ協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関やご家族様からの情報収集で早期退院がスムーズに出来る様に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取りを行う体制が整っておらず、医療機関に繋がっている。今後は看取りも視野に入れ、研修や方針の話し合い等を行っていきたい。	利用開始時に重度化と看取りの指針に沿って、医療行為が必需になったり食事が取れなくなった時は対応が難しいことを伝えている。利用者の体調変化に応じて、家族と主治医、事業所で方針を話し合っている。現状は病院や他の介護施設に移る利用者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、実践力が身に着くよう研修を行い備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。 コロナ禍で地域との協力体制は構築できていないが、今後は、力を注いでいきたい。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。開設後まもなく感染症が流行したため、地域との協力体制については確認していない。職員の救命講習は、徐々に受講を進めている。	地震時の室内の危険箇所を確認するとともに、災害時におけるケア別の個別対応について話し合うよう期待したい。また、地域との協力体制について町内会関係者と話し合うよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーに配慮しながら声かけを行っている。	年に複数回、言葉かけや接遇に関する研修を行っている。申し送りはスタッフルームで行い、書類は直接目の届かない場所に保管しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを汲み取れる様に日頃からのコミュニケーションを大切にし、自己決定が難しい入居者様には選択を提案したりと自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に偏ってしまわない様、常に入居者様の対応、希望を優先にする事をカンファレンス等で職員間で再認識を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせながら着用して頂いたり、職員と一緒に洋服を選んだりしている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策に気をつけながら、食器の片付けや手作りおやつの際のまぜる・切る等の準備を一緒に行っている。	主菜や副菜は調理された物が届けられており、ご飯と味噌汁を事業所で作っている。手作りの蒸しパンやたこ焼きなどのおやつ作りや出前の寿司、持ち帰りのハンバーガーなども利用者の食事の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた食事量、水分量を記録している。進まず接種が足りない場合は好みの物を提供し、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立している入居者様には声掛けし、促している。困難な方には介助を行っている。歯科の口腔ケアを利用し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のリズムに合わせた声掛けや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様、支援している。	排泄表に全員の排泄状況を記録している。自立している利用者もおり、日中はトイレを使用し、夜間のみポータブルトイレやパッド交換で対応する利用者もいる。適切な声かけ誘導を行うことで排泄用品の使用頻度が減り、排泄の自立へと改善したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや、毎日の運動で便通がスムーズになるよう、取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、その方の体調や気持ちを取り、曜日を変更する等して対応している。	日曜日が予備日となっており、1人当たり週2~3回の入浴を行っている。一人ひとりお湯を交換し、好みの湯加減や入浴剤の利用、好きな音楽を聴きながら入浴することもあり、利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯し、音等に気を付けながら安眠できる環境に努めている。日中帯の様子も見ながら、横になり休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導の元、副作用、症状や用量の変化を理解・確認できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意、好みを知り、作り物を一緒に行ったり、出来上がった時の達成感や楽しみを持って頂ける様に取り組んでいる。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出レク等を行う事は少ないが、散歩やご家族様に外出の協力頂き、支援を行っている。	天候の良い日は事業所周辺や遊歩道を散歩している。日用品の買い物やコンビニエンスストアに行くこともある。感染症の流行状況を見ながら、紅葉見学や花見などのドライブに出かけている。今後も感染状況を見ながら外食やバラ園、工場見学などに外出する機会を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金はGH金庫にて保管預かりしている。希望時には金額を共有したり、本人の意志を尊重しながら買物レク等で使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話や手紙などのやり取りが出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目のつく場所に季節感が分かる飾りを入れ替えしながら工夫している。 季節により温度が快適でなくなる共用部には、暖房増設し、適宜使用している。	オープンキッチンに面したりリビングダイニングは広々とした空間になっており、ユニットごとに利用者に合わせて家具を配置している。天井には空気を循環させる機器や手作りの装飾が吊るされている。壁面には季節の装飾が施されている。空気清浄機を設置し、ゆったりと思思いの場所で過ごすことができる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の現状を見ながら、穏やかに暮らせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を居室に置き、安心して暮らせるよ様に工夫をしている。	ベッドとクローゼットが備え付けられている居室に、タンスや机、椅子などの使い慣れた家具が持ち込まれている。写真や職員と一緒に手作りした作品を飾っている利用者もいる。一人ひとりに合わせて整理された、清潔感のある居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字の工夫や手作りのイラスト等、声掛け等で自立した生活が送れる様に工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 2階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	2023年 2月28日	評価結果市町村受理日	2023年 4月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や、共に行う制作活動、毎日の体操やゲーム、脳トレ等に力を入れています。季節ごとの飾りや行事を行う事で、季節感を感じて頂いたり得意不得意を把握しながら、制作活動を行う事で完成時の達成感や充実感を持って頂ける様に支援しています。入居者様の自立した生活や要望を大切に、笑顔で過ごして頂ける環境作りを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様にかかわる時は理念を意識した実践を心掛けている。また職員同士カンファレンス等で再確認し、理念に立ち返りながら行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により積極的に出かける事はできていないが、買物や散歩に出かけ挨拶を交わしたり、声をかけてもらったりと交流できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれた事業所と理念をあげているが、コロナ禍の為、実践できていない。今後は交流会等を開き、介護方法などを地域に活かせる機会を作っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の運営推進会議は書面報告とご家族様の面会時に意見交換となっていて、要望を聞き取りサービスの向上できる様に職員間で共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況の報告や不明点の確認や助言を頂きながら、取組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な社内研修を行い、知識の向上や、職員間で認識の確認を行いながら、身体拘束の無い、ケアを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内研修を行ない、職員同士でも常に不適切な対応となっていないかの確認を行っている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修は定期的に行っている。外部の研修に参加した職員が他の職員と共有し理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、十分な説明を行い利用者と家族の意見・疑問点を聞き取れている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回のモニタリングや面会時に本人とご家族の意見を聞き取っており管理者や他職員に共有できる機会を設けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや面談等で意見や提案を聞き、すぐに対応してくれる環境にある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備等の話を聞き働きやすい環境作りに繋げている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講や資格所得支援制度がある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所との交流は行えていないが、社内のオンライン会議等で意見交換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談をしっかりと行っている。課題や生活歴を職員間で共有し安心した生活が送れる様に体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのやり取りを複数回行い、言いにくい事には配慮した上での聴き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取った課題の優先順位をはっきりさせ最優先の課題を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には日々の役割があり共に生活を行う者同士であると感じて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方にいる方もいるが、定期的な連絡や入院退院の際には可能な限り対応して頂き絆が途切れない関係性を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の取次ぎや入居前の交友関係を把握し、日々の会話の中にも取入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事、日々の生活の中に関わり合いを持てる機会がある。職員が橋渡しをする事で、孤立しない環境を作っている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談を受ける事に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々傾聴し、個々の生活や生活歴を大切に、希望に沿ったサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント情報や日々の会話からヒントを得てこれまでの生活に努められるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施し、出来る事、出来ない事の見極めを行い快適な暮らしが出来る様支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・医療職・薬局からの聴き取りを元にし、助言をもらいながら計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は詳しく記入できている。体調変化や家族とのやり取り等も記入し、職員間の情報共有が出来ている事や計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が意見を出し、柔軟な対応やその時々合わせたサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買物を支援し出来るかぎり本人の希望する生活が送れる様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主な往診先があるが、これまでのかかりつけ医を優先する選択肢を持って頂いている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の申し送り用紙があり、1日の細かい気づき等を全職員が書き込んで共有できる様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から病院と連絡を取っており入院中の状況や退院後の経過を共有できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応は現在行っていない為、医療に繋げているが、今後は研修を受ける等してまずは看取りへの理解を深め出来る事や方針を共有していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法をすぐに見える場所に置き、定期的に事例を使った研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を全職員が参加出来る様調整している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けを行い、人格やプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺う事の他に、選択が困難な方には選択肢を絞り提案し、決定出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、常に利用者優先を職員間で再確認合っている。希望には可能な限り実現できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人のこだわりを大切にし、自己決定できる様、声掛けを行っている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの感染状況を見ながら、食事の片付けや月に1度お誕生日食の特別メニューあり、メリハリのある食事を提供している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調に合わせて食事量、形態、飲水量を調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	会食後の口腔ケアの声かけを行い、口腔内に異常がみられた場合は訪問歯科を利用し、清潔に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、利用者のほとんどが、トイレでの排泄ができる様支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、水分摂取を促す事で薬に頼らない方法をとり便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者ごとに基本の曜日は決まっているが、本人の気持ちを尊重し、曜日を変更するなどして臨機応変な対応をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を見て休息を声掛けしたり、自立の方は自由に休んだり休息できている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導の元、職員も知識を広げている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や季節感のわかる飾りを制作活動に取り入れて完成時の達成感を得られる様な対応をしている。以前からの趣味、嗜好品を提供し、満足できる様支援している。			

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、GH主体の外出はできていない。ご家族も高齢の為、一緒の外出が難しくなっているが、本人の希望の把握に努め、GHでの散歩や外出に力を入れていきたい。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止の為、事務所金庫で現金の預かりを行っているが、本人の希望時には金額を伝えたり、近所の買物で使える様にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の取次ぎを行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や、認識しやすい色、大きな文字で混乱なく生活が出来る様に工夫をしている。 フロアには空気清浄機を2か所設置している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席は気の合った利用者同士で座って頂いているが、レク時は自由に座ってもらったり、ソファーに一人で座り自由に過ごす事ができている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していたタンス等、馴染みの物を持ち込んでもらう事で居心地よく過ごして頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアの表記を大きく目立つ様にしたり、カレンダーや時計を目につく場所に配置し、工夫している。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホームウェルスタイル拓北

作成日：令和 5年 4月 3日

市町村受理日：令和 5年 4月 6日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議はコロナ禍の為、家族の参加ができず、書面での報告となっている。 研修実施の報告はしているがテーマや研修資料の添付を行いたい。	テーマを決めたり、施設研修を行った際の資料を添付し、ご家族様からの質問や意見を求めて運営に反映させていく。	2023.7月より、運営推進会議の実施を予定しているが、書面開催の間は研修資料添付やテーマの準備をし、ご家族様からの意見や質問が収集できる様にアンケートを取る形で行う。	4か月
2	35	地震時の室内の危険箇所確認と利用者のケア別の訓練を行う様、災害対策進めたい。	次回の避難訓練実施月の6月に行う。 町内会関係者と面識を持つ。	入浴時や排泄介助中も想定し、訓練を行う。 室内の危険箇所をリストアップしマニュアルと共に書式化する。 町内会関係者と避難訓練の話合いを行う。	3か月
3	26	本人、家族の意向が反映されていないサービス計画書(2)がある。	意向が反映されたサービス計画書を作成し、意向に沿ったサービス内容を提供する。	(2)表に移行が反映された内容になっているかを確認し本人・家族の意向に沿ったサービス内容になる様、計画書を作成する。 普段の会話の中からでの意向の汲み取りを強化する。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。